

本株主通信は2018年3月末時点での株主の皆様にお送りいたしますことをご了承ください。

株式会社 **日本マイクロニクス**
証券コード：6871

■ 株主・投資家の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2018年9月期第3四半期業績について、ご報告いたします。

当第3四半期連結累計期間におきまして、半導体市場においては、以前はスマートフォン等の特定製品が半導体需要に大きな影響を及ぼしていましたが、データセンター、自動車、ロボット、AI（人工知能）等の分野で半導体消費が増え、制御が高度化・複雑化したばかりではなく、処理されるデータ量も増加したことで、今後もロジック・メモリ共に需要の安定的な成長が見込まれています。一方、FPD市場においては、スマートフォン向けOLEDが、価格面でのボトルネックにより需要が想定より伸びず、需給調整に時間を要すると見られますが、LCDパネルの需要が底堅く推移すると予想され、需要等の伸びは総じて横ばいを見込まれています。

このような状況の下、当社グループは、長期的に当社が目指す姿をまとめた『MJC Future Vision』を策定し、「QDCCSS*を更に推し進めて品質と納期での競争力を高め、市場へ安心・安全を提供する事で『より豊かな社会の発展に貢献』する」企業を目指す活動に注力してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高21,828百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益2,436百万円（前年同期比146.2%増）、経常利益2,587百万円（前年同期比144.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,978百万円（前年同期比229.3%増）となりました。

2018年9月

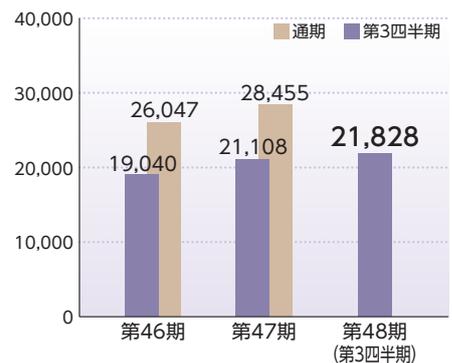
代表取締役社長 **長谷川 正義**

※QDCCSS(呼称:クダックス)

当社独自の総合管理システム。製品の開発から製造、資材、物流、管理、システム構築のあらゆる段階において、全ての社員の力を結集してQuality, Delivery, Cost, Compliance, Service, Safetyの改善及び改革に取り組んでいる。



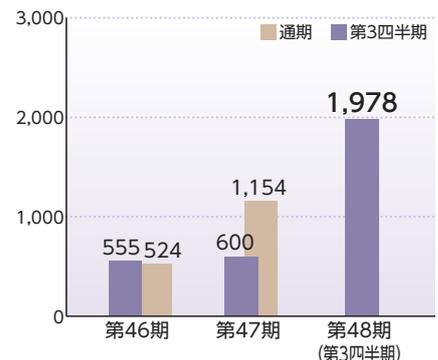
■ 売上高(百万円)



■ 営業利益(百万円)



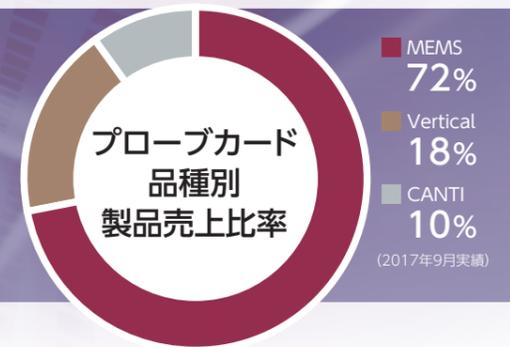
■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(百万円)



U-Probe

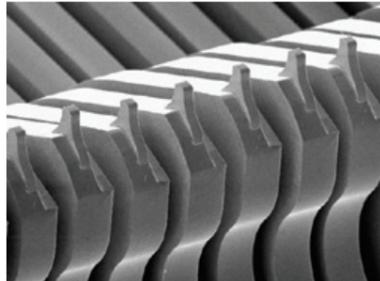
MJCの技術力を結集したU-Probe

当社プローブカードの中で最も売上構成比率が高いMEMS型プローブカード「U-Probe」は、DRAMやNAND Flash等のメモリデバイスを測定する際に使用する器具です。メモリ向けプローブカードとして世界No.1のシェアを誇り、MJCの先端技術を結集した製品です。NAND Flash向けでは、2005年に世界で初めて12インチ（300mm）ウェーハを1回のコンタクトで検査するプローブカードを製品化し、DRAM向けでは極限までタッチダウン回数を減らすDUT（検査対象のチップ）配置を実現しました。



マイクロカンチレバー

U-Probeの中央、直径300mmのコンタクトエリアには、接触子である超微細なプローブ「マイクロカンチレバー」が組立てられています。

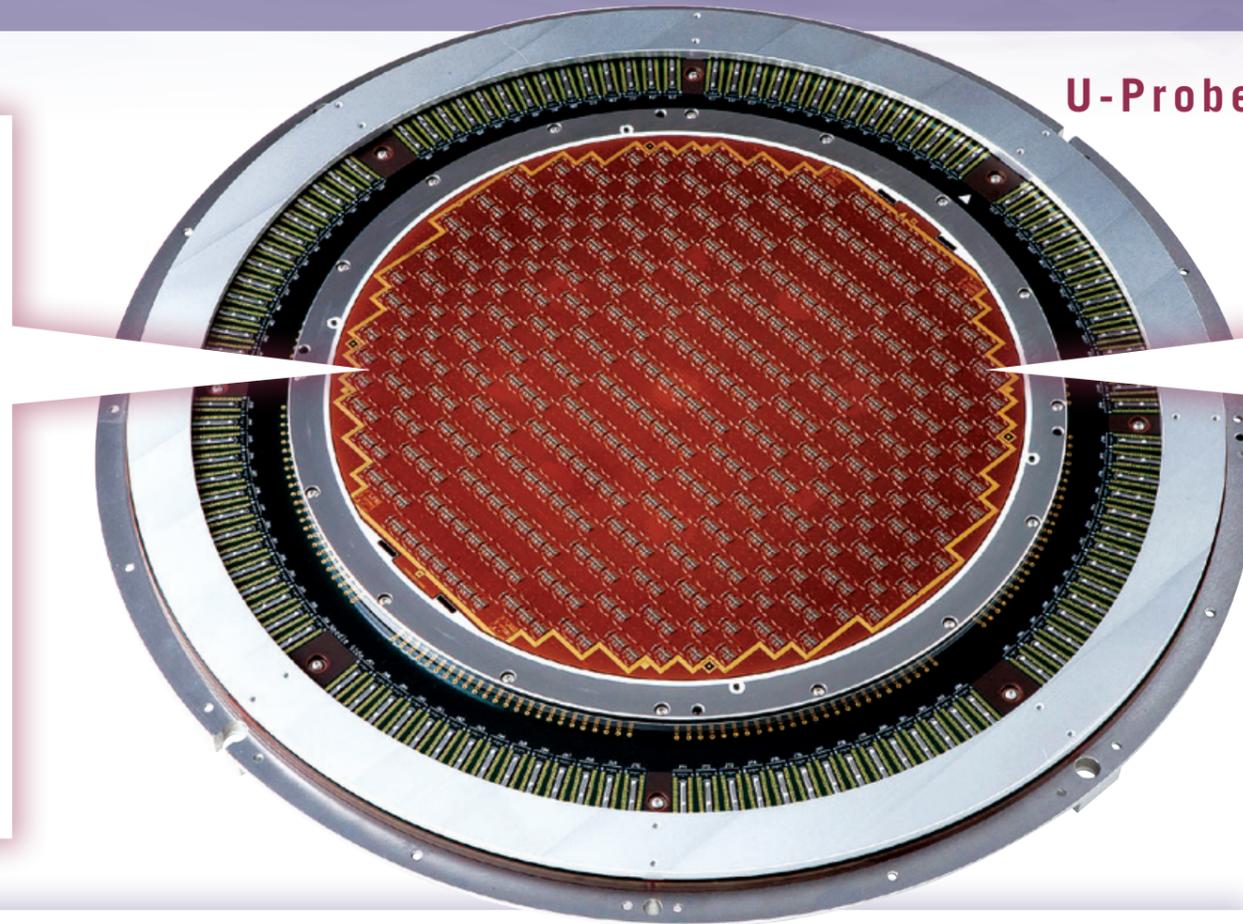


プローブの配置は、検査対象のウェーハ上の電極に正確に接触するよう設計され、プローブとプローブの間隔は、髪の毛の太さよりも狭く、密集しています。

「マイクロカンチレバー」は、MEMS*技術を用いて内製しています。更に、薄膜多層配線基板上へのマイクロカンチレバー組立ては、内製装置により自動化しています。

*MEMS：微小電気機械システム

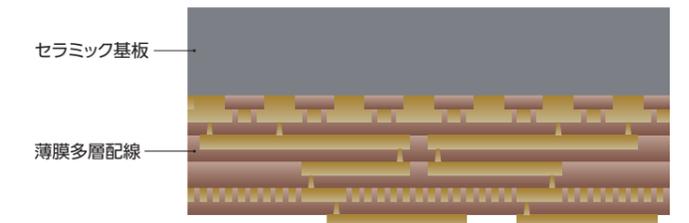
U-Probe



薄膜多層配線基板

当社は、薄膜多層配線技術を応用し、セラミック薄膜多層配線基板を自社で内製することに成功し、開発困難と言われた300mmウェーハの一括検査を可能にしました。

薄膜多層配線基板とは、セラミックの耐熱性に優れ、強度が高い特性と、薄膜多層配線の電気信号を高速で正確に伝える高い伝送能力を兼ね備えたプローブカードの最重要部材の一つです。



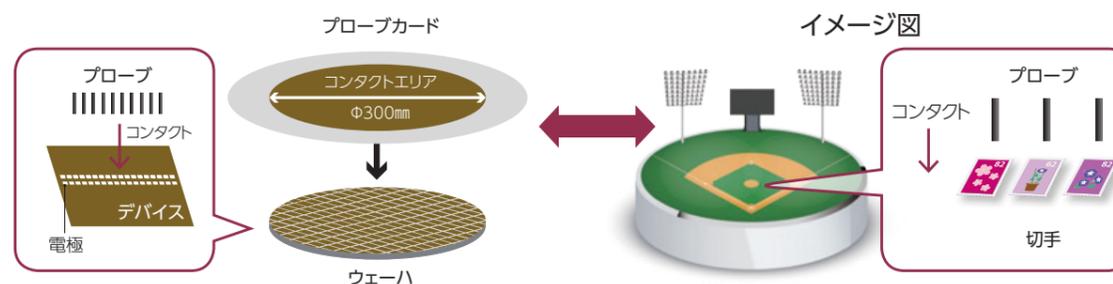
正確なコンタクトを支える精緻なプローブカード

ウェーハ検査では、U-Probeのプローブ「マイクロカンチレバー」が、ウェーハ上の電極と接触（コンタクト）し、電気を流してデバイスの良否判定をします。ウェーハ検査において、300mmのウェーハを野球場の大きさに例えると、プローブがコンタクトするウェーハ上の電極は、切手サイズ程の大きさです。つまり、ウェーハ検査は、野球場に整然と並べられた十数万枚の切手全てに、プローブを一括で正確に接触させるイメージです（下図参照）。

このようにプローブカードは、非常に高い精度が要求され、超微細な構造を持つ検査器具です。

ウェーハ検査に対するニーズは年々難易度が上がり、電極のサイズは更に小さく、数はより多く、大電流を流す検査が求められています。

当社はこうした顧客ニーズにお応えする為、日々、更なる技術力の向上に努めています。



製造設備の内製

プローブカード製造の鍵となる生産設備は、自社内で開発から設計、組立てまで行っている為、顧客ニーズへの迅速な対応が可能です。



他のプローブカードメーカーにはないこの取り組みは、長年にわたりFPDや半導体の検査装置を開発・製造してきた当社だからこそ可能なのです。

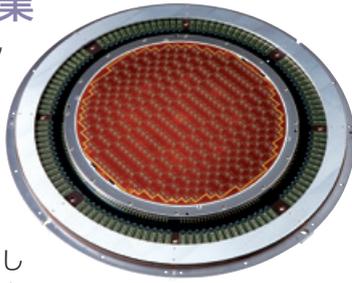
内製設備の自動化も進め、品質の保証と短納期化を実現しています。海外拠点においても日本国内で製造した内製設備を設置し、世界中に高品質な製品を供給しています。

■ 営業の概況

■ プロブカード事業

プローブカードは、ロジック分野での拡販が想定より進まず伸び悩みましたが、メモリ分野では、NAND向けが好調に推移したことで、全体としては増収となりました。利益面におきましても、受注高増加で稼働率が向上、及び製品構成が変化したことで増益となりました。

この結果、売上高は19,031百万円(前年同期比14.5%増)、セグメント利益は3,970百万円(前年同期比123.6%増)となりました。



■ TE事業

TEは、プローブユニットを含めたFPD検査関連において、顧客の装置導入が進んだことで前年同期よりも売上高が増加したものの、前連結会計年度の業績に貢献した半導体検査装置の需要が減少した影響で、全体としては減収となりました。

この結果、売上高は2,796百万円(前年同期比37.7%減)、セグメント利益は290百万円(前年同期比68.0%減)となりました。



■ セグメント別売上高(百万円)



■ セグメント利益(百万円)



※セグメント利益には、全社費用は含まれません。

■ 地域別売上高構成比(百万円)



■ 日本	5,530 (25.3%)
■ 韓国	5,640 (25.8%)
■ 台湾	5,334 (24.4%)
■ その他アジア	3,429 (15.7%)
■ 欧州・米国	1,893 (8.7%)

■ 通期業績予想

(2018年8月8日時点)

売上高
30,100 百万円

営業利益
3,000 百万円

親会社株主に帰属する当期純利益
2,300 百万円

1株当たり配当金
15 円

TOPICS

国内自動車メーカーへパワー半導体向けプローバ納入

この度、国内自動車メーカーへ車載向けパワー半導体のウェーハ評価用ウェーハプローバ「PW-8000」を納入いたしました。本装置は、大きな電力を使用するパワー半導体の検査で、全自動でウェーハを搬送し、テストに繋がったプローブカードとウェーハが正確にコンタクトできるよう、位置合わせを行う装置です。

自動車の電動化や自動運転技術の発展に伴い、パワー制御を行う高性能なパワー半導体の需要が益々高まっている中、今回の納入実績はこれまで主に半導体メーカーに向けてテストソリューションを提供してきた当社にとって、新たな業界における顧客開拓の重要な第一歩となるものでした。今後も、益々パワー半導体の需要が見込まれる自動車、輸送、電力、情報通信機器分野等で幅広いニーズに応えてまいります。



■ 株式事務についてのご案内

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 連絡先 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711(通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式会社 **日本マイクロニクス**
MICRONICS JAPAN CO., LTD.

本社 〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8
 HPアドレス <http://www.mjc.co.jp/>